

# 緑ヶ丘を去るにあたり

伊 藤 一

小樽商科大学に奉職し、30年の節目に退職となりますが、感謝の言葉しか思い浮かびません。学部を卒業し研究者の道を志し、経営学者の森田道也先生、経済学者の南部鶴彦先生のもとで学び、田島義博先生のご指導で小樽商科大学に奉職いたしました。その後、英国に留学した際もマンチェスター大学のゲリー・デービス先生のもとで数多くのことを学ぶことができました。

東北の豪雪地域出身の私にとっては小樽の雪はそれほどの辛さもなく過ごすことができました。それより冬の晴れた朝の凜とした空気や夏の緑丘のむせるような甘い草の香りは、最高の研究環境であったと感じております。

研究者としての生き様は後述の研究業績に示す通りです。

手がけたテーマも経営戦略論、産業組織論、流通論、そして奉職してからは医療経営をかじり、地域活性化に関する研究にも手をかけ、その場その時は楽しく研究生活を過ごすことができました。

今は次の職場にてまだ少し、研究職を続ける機会を与えていただいたためか、研究者としてのピリオドを意識することが未だ出来ず、残りの数年で過去の研究を整理する機会があればとまだモラトリアムを感じております。

指導をいただいた先生方、同僚の研究者の方々からは、研究者としての心がけや方向性について今では自らの思考の糧となっております。奉職後、自由に研究ができたのも卒業生が築かれた“緑丘”のご恩と感謝しております。

ただ、すでに鬼籍に入られた田島先生には、賜った学恩に報いるすべもなく申し訳なく思う日々でございます。

大学および、同僚の皆様方、学生諸君にただ、感謝を申し上げ、この緑丘を後にいたしたく存じます。

感謝。

